

KODAK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

19

18

17

B

15

14

13

12

11

10

9

8

M

6

5

4

3

2

1

A

新
入
板

三
指
古
板

三

13
331
3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

門
號 231
卷 3



名樞古今歌卷之三



録

二本懐

并 其ハ 奉り 出 之 子 此 病 象 也 茶 部

付 其 中 之 者 亦 附 礼 一 ぶ ぐ け 禮

仁 養 此 節 效

并 其 中 之 者 亦 附 礼 一 ぶ ぐ け 禮
付 其 中 之 者 亦 附 礼 一 ぶ ぐ け 禮
仁 養 此 節 效

明治三十八年 十月十三日
坪子 氏 寄贈

未熟れ得矢

并、為人のすし其の種も

おとれぬ酒の

付、其れよ公のりてきりぬれぬの

美其的

右續れ報忠

并、沈魚屋、人、養人、も

付、未熟とありて高き

れ、續の徳

仁術れ本懐

後、事、ひ、流、し、ま、は、の、ど、の、名、將、の、民、と、あ、ら、ん、と

た、り、け、り、と、お、た、げ、仁、の、心、を、し、り、て、和、く、と、む、ら、ん、と

ね、心、の、り、て、は、義、と、も、神、醫、と、も、よ、中、井、家、れ、元、祖、知、若、衆

道、この、の、臨、終、と、く、小、舟、の、医、道、の、中、真、而、て、難、症、疑、病

と、す、い、ひ、ま、あ、ら、ん、と、く、名、譽、を、あ、ら、ん、外、か、た、は、

く、じ、の、り、と、死、を、ら、せ、ん、の、西、公、を、あ、ら、ん、の、い、よ、あ、ら、ん、と

ら、り、あ、ら、ん、に、人、お、く、お、し、ひ、あ、ら、ん、の、た、ら、ぬ、ら、ん、と、あ、ら、ん、と

よ、り、て、死、ん、だ、ら、ん、と、あ、ら、ん、の、中、の、事、ひ、と、あ、ら、ん、と

ら、ん、の、縮、子、を、死、と、合、子、百、あ、ら、ん、の、り、て、附、せ、ん、と、あ、ら、ん、と

あ、ら、ん、の、難、病、あ、ら、ん、と、あ、ら、ん、の、り、て、す、く、ら、ん、と



世の日月二日のものも来りし神の世は月とけし示積のつを
 見れぬとすの世はさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 佐藤林鳥とてえんおとりの水は種ゆる徳とく榮唐の
 あらうさうにいなごさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 ちくの安へあつてん代今ん中へけりける世は風の吹く
 百中うさぎづけりつりのけきくさくさくさくさくさくさく
 うん定めて中初た案れりもあつてさくさくさくさくさくさく
 みくろある扱をさくの福がひたす中う月今んさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 わりがはれてさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 十一のさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく



世の日月二日のものも来りし神の世は月とけし示積のつを
 見れぬとすの世はさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 佐藤林鳥とてえんおとりの水は種ゆる徳とく榮唐の
 あらうさうにいなごさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 ちくの安へあつてん代今ん中へけりける世は風の吹く
 百中うさぎづけりつりのけきくさくさくさくさくさくさく
 うん定めて中初た案れりもあつてさくさくさくさくさくさく
 みくろある扱をさくの福がひたす中う月今んさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 わりがはれてさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 十一のさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさく
 さくさく
 さくさく

さくさく
 さくさく
 さくさく

二百八十のりつせいのなほとくありしものもは估る林なり
うまの目ありたりといふことをもてむるまのりぬ

未然の得失

大徳のおもく成りとの細障候へりて凡そたもすくこと西せむ
様とてそごうごのたふなり西都十番唐之秀の光徳のちや
く子のておさめたと死ににらんぬ救世唐唐の光妻に中ういく
せり人へめり別勇の才徳ありて内に大志候へり弘治
二ひれ秋末着能興其まをふらばなりと死光秀も一粟
うちをよせんすすみりぬも物事のまじりてくぬて
びぬる候へりおこすと二徳くららるるに平十人むるのみ
てあしひともお徳と出づりちりてといふもぬも物上郡に

あてあらしむるのたふりといふお中でおちのびけりあとも
おひきり候へりおれはなほおのうまをたぬ死らぬ
ろろつひのりてあまの徳候へりてはものぬらげけりあり
ぬ一粟唐老人光秀がまは小らとぬてぬ死すは候え
秀よびとも秋末をてにぬらあせりていふひのこまは
あつたよとてあふれ老人中うがけりて救世候へり
あひてのちやなるはあもひおち候者こそそかきけては
すてせんちあせりひて猪股の死にうんまらぬことあり
たもて漢の七十二夜のものとて鳥の一日んは日百の
のこひとせりあはれあひてあつた今君候おすりあさ
たれりいこそとて光秀候にやあべとていふことあり
候方れ友簡にやいすことぬらぬあつたあつた候へり

ちりし中ら必死にたぐりてくかまよりの神ちりよりの民もみ
 房方入るるの白きききほわのそ世のかみくきわの塵界ふ
 昧のおつりひのひもこころ中ら病も及れ出は玉田たの女系
 学て二条りの川さるあふまのきり産しとたうりてらりける
 だこの座さた大井戸あり神まに人とおりぬゆこの世をた
 びくまのよしたぬりて守きつとくものち病入積事たす
 せりあ内たよものもははむすくもいりて二日月も亦よ
 せどせぬ後でわたりとたふつとんあれ小せらぬ毎物あぬ
 小まのり井内たてせむと中せりしていさ人も世はたぬ
 あやまのりつり小敷月あてをてり井内おちておぢい今
 おどろたさうたさぬてぬの月死のぬいおげなる世はたぬ
 井内肉たぬぬひりつる井内産の水うけぬわらぬ女ありみどり



左に井た
 毒あり
 むすこす入るるに
 入るんとするおぢの
 ねをよよりいれあふ
 きくむらぬの毒す
 いらくに動さそまれの
 毒有とくある井ふの酒を
 多く入てそほとくれが

相ひ
 ちきや

井のこまらら
 あらうら

のと病も癒れさうぬよそやひおどりてや女と目合入合せり
 ふた女座したも甘んじりめれば女へ頼み神おやひとわら
 げよあつと若衆もよみれば女は流すていふよおがてん
 女もさうよみおのりたまわらぬと酔ひつてさう
 づらひとおのひなきてたすまらおやひの人とたぢや
 ちらおおがてんせいのさんとさしめんとてまのたか
 こ病もてあつて来て赤地も里へ申してさうおのりよ井も
 かまはれはかまよけ井もさういふあつてさうあつてあつて
 あつてさういふ水もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 女もさういふ方にあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 そやひなる小神もさういふあつてあつてあつてあつてあつて



あるし後人曰る事ありと云ふはゆゑに中世に入用し
つゝ世にうたふ事あり所の世方のかく格の格取あか
とよんをこぼるれば世たのこも解也もあつてたあひゆも
事れどおえんと法人とさたんとし油の油路も世川も方
の度とありとを辨方の中月は西ふから紙べらうと病
やういれどもおえふの油は出流へ入らう今日中は西也
ト云ふはた奪えやういれそのことお所めもあのとく
されば世にうたふの種利は方よりしすともまうら
世にふいしませまりと中合せまのしとくおぬへおせん其の
つけいふおおのひ合せ時によ病びゆせんも後いゆを
世と格中してたあを油は出流の度と引らかりふ
二日のたやをそのやの川の井戸は引してたあをたあえ

かたり度ととも一房お地れたえとあつていりこそお
りし油取そのらとあひありてたあをくよとて大徳
碩学とあひ文と中とたうら上務とくよとてはやと
西の山耳にまの川一線炎あつてふるおあつり信官や
かあつりおと人の心一兒あひれ隠徳のむとひせん万の
かやりの井中より出ーかみれうら紙かたれたる百とん右へ
月せんまはまは終白虎朱檀と取つけたり七月お誘る
かよつて夷則のわみと名付りといふ

は市を以て中よ

一 海舟記

全巻又冊

おあすしやうとてふとよとてあつたうとて
うとてふとてあつたうとて

